

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国際医学技術専門学校
設置者名	学校法人 東洋学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
専門医療課程	理学療法学科	夜・通信	115 単位 3225 時間	9 単位 240 時間	
	作業療法学科	夜・通信	122 単位 3275 時間	9 単位 240 時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「教員の担当教育科目及び資格」「シラバス」を事務所に設置

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際医学技術専門学校
設置者名	学校法人 東洋学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

「役員名簿」を東洋学園事務所に設置

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前東洋学園職員	4 年 令和 5. 10. 13~ 令和 9. 10. 12	財務
非常勤	株式会社役員	4 年 令和 5. 10. 13~ 令和 9. 10. 12	経営
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際医学技術専門学校
設置者名	学校法人 東洋学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 学校長より科目担当者にシラバス作成を依頼し、各科目担当者が本学指定の基準に従って、講義名、講義時間、講義時期、使用テキスト、成績評価方法、講義概要、講義内容を記載し、前年度の 3 月末までにシラバスを作成する。教務部で確認し 4 月に授業計画書(シラバス)を学生にメールで配信して公表する。	
授業計画書の公表方法	
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学修成果の評価は、学則により試験および平素の成績によって行うと規定している。期末試験を実施し、各科目とも授業時間数の 3 分の 2 以上の出席を受験資格としている。実習については、4 分の 3 以上出席した上で実習前後に学内評価を実施し判定している。最終的には、前後期に実施している単位認定会議により履修認定を行っている。 成績の評価(5 段階評価)について 成績の評価は、S (秀), A (優), B (良), C (可) 及び D (不可) の 5 種の評語をもって表し、それぞれに対してグレード・ポイント (GP) を付与する。 S : 90～100 点、A : 80～89、B : 70～79 点、C : 60～69 点、D : 59 点以下 (不合格)、本年度から適用する。 ただし、再試験を受験し 60 点以上の場合の評価は C となる。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 各科目の素点の合計を科目数で割り、平均点を算出している。平均点の比較により順位を決定している。半期ごとに実施する単位認定会議後に保護者に成績表を配布している。成績表には順位を記載し、成績の分布状況を把握できる。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	配布物「学則」「学則補足」の(成績の考査)に記述
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 「学則補足」より (成績考査) ・単位認定にかかわる学習の評価は、試験および平素の成績による。 ・かかわる試験は、期末試験、卒業試験および以下に示す試験である。 ・各科目とも、授業時間数の2/3以上出席していなければ受験できない。 1. 期末試験 ●試験の可否 ・試験の成績は、100点満点中60点以上を合格とする。 ・試験開始より20分以上遅刻したときは受験することはできない。 ・試験を無断で欠席した場合も受験資格を放棄したと判断し、以後当該科目試験を受けることはできない。なお、定期試験にかかわらず科目内で実施される中間試験などにおいても同様の判定をする。 ●成績の評価(5段階評価)について 成績の評価は、S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)及びD(不可)の5種の評語をもって表し、それぞれに対してグレード・ポイント(GP)を付与する。 S:90~100点、A:80~89、B:70~79点、C:60~69点、D:59点以下(不合格)、本年度から適用する。 ただし、再試験を受験し60点以上の場合の評価はCとなる。 2. 卒業試験 ・3年次、臨床実習(総合実習)終了後に理学療法演習の単位認定のために実施する。 ・判定は6割以上を合格とする。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	「学生便覧」をHPに情報公開し、「学業成績の評価並びに進級・卒業認定に関する規定」を本校事務所に設置。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	国際医学技術専門学校
設置者名	学校法人 東洋学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	東洋学園事務所に設置
収支計算書又は損益計算書	東洋学園事務所に設置
財産目録	東洋学園事務所に設置
事業報告書	東洋学園事務所に設置
監事による監査報告（書）	東洋学園事務所に設置

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		医療専門	理学療法学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	3225 時間／115 単位	1845 時間 /79 単位	480 時間 /16 単位	900 時間 /20 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	
			3225 時間/115 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
120 人		87 人	0 人	7 人	39 人		46 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）教育課程表を基にシラバスを作成。年度末～年度始めに全生徒へ配布。シラバスにおいて講義名、講義時間、講義時期、使用テキスト、成績評価方法、講義概要、講義内容を公表している。
成績評価の基準・方法
（概要）各科目の素点の合計を科目数で割り、平均点を算出している。平均点の比較により順位を決定している。半期ごとに実施する単位認定会議後に保護者に成績表を配布している。成績表には順位を記載し、成績の分布状況を把握できる。
卒業・進級の認定基準
（概要）進級認定は、各学年時の全ての科目を履修した者が、進級判定会議を経て、校長による決定を受ける。卒業認定は、必要年数の在籍、規定科目の履修を経て、卒業試験を受験する。その後実施される卒業判定会議により卒業の可否を判定し、校長がこれを決定する。
学修支援等
（概要）入学時に心身の留意事項確認。年度の始め、期末試験後の担任による個別面談。授業の様子から学習意欲等を確認し個別面談の実施。必要に応じカウンセリングルームの利用を勧める、保護者に連絡を行い、学習意欲の向上を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
43 人 (100%)	0 人 (%)	41 人 (95%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等） 病院、診療所、高齢者施設、小児施設			
（就職指導内容） 履歴書の添削指導、面接指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士 国家試験受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
115 人	6 人	5%
（中途退学の主な理由） ・一身上の都合		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個人面談、保護者を含めた 3 者面談、臨床心理士によるカウンセリング		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医療専門	作業療法学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3275 時間/122 単位	1835 時間 /86 単位	360 時間 /12 単位	1080 時間 /24 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3275 時間/122 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		49 人	0 人	6 人	17 人	23 人	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
（概要）教育課程表を基にシラバスを作成。年度末～年度始めに全生徒へ配布。シラバスにおいて講義名、講義時間、講義時期、使用テキスト、成績評価方法、講義概要、講義内容を公表している。							
成績評価の基準・方法							
（概要）各科目とも担当教員が試験問題を作成し、期末（前期・後期）試験期間中に実施する。その試験結果ならびに受講状況などを勘案し評価を実施する。学則に準じ、A～D の段階に判定する。A～C 判定は合格とし、D 判定（59 点以下）は不合格となり再試験を受けなければならない。また各期（前期・後期）に実施する単位認定会議後に保護者に対して成績表を配布している。成績表には科目平均点と素点をグラフにて提示し学生個人の学習状況が把握できるようにしている。							
卒業・進級の認定基準							
（概要）進級認定は、各学年時の全ての科目を履修した者が、進級判定会議を経て、学校長による決定を受ける。卒業認定は、必要年数の在籍、規定科目の履修を経て、卒業試験を受験する。その後実施される卒業判定会議により卒業の可否を判定し、学校長がこれを決定する。							
学修支援等							
（概要）各学年に担任と副担任を設け学生個々の心身状況の把握に努める。各期の開始時と定期試験前に個別面談を必須化し、各学生の学修状況の把握と支援を実施する。また、特に学生のメンタル面に関しては専属の心理士と連携を図り問題の解決を図るようにしている。生活態度（特に出欠席、遅刻、提出物の不備が続く等）に変化が現れ始めた学生は早期から保護者との連携を実施し、家庭における学習環境の適正化を測っている。							

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 （ 100 %）	0 人 （ 0%）	13 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） リハビリテーション病院、外科病院、介護老人保健施設			
（就職指導内容） キャリア教育を実施し、2、3 年次の実習で即戦力を身に付けさせている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 作業療法士受験資格、福祉住環境コーディネーター資格（2 級）			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47 人	4 人	9 %
(中途退学の主な理由) 進路変更及び、一身上の都合による。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制を取り入れている。ホームルーム、カウンセリングルームにおける相談などで問題を抱える学生の早期発見とサポートに取り組んでいる。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理学療法学科	200,000 円	700,000 円	190,000 円	その他：教科書代、教材費等
作業療法学科	200,000 円	700,000 円	190,000 円	その他：教科書代、教材費等
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
学校独自の奨学金、成績優秀者授業料減免制度				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://iimt.ac.jp 「自己評価表」を事務所設置		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
5年に1回、一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構の評価を受けている。 (2025年4月1日～2030年3月31日)までの「認定証」を受けている。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構		
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://iimt.ac.jp 「認定証」を事務所掲示		
(備考)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://iimt.ac.jp
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H123310001515
学校名（〇〇大学 等）	国際医学技術専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 東洋学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		27人（ 15 ）人	24人（ 14 ）人	27人（ 15 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	17人	19人	
	（うち多子世帯）	（ 14 人）	（ 14 人）	
	第Ⅱ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ － 人）	（ 0 人）	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ 0 人）	（ 0 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	0人	0人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				27人（ 15 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0 人
----	-----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0 人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0 人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0 人	人	人
計	0 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0 人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0 人
3月以上の停学	0 人
年間計	0 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。